

DXハイスクール伴走支援事業

ブロック別の取組実践発表会

・研究協議会実施レポート

－ 12/12実施九州・沖縄ブロック－



実践発表会①（福岡県立八幡高等学校）

実践発表内容

実践発表を受けたフィードバック（FB）・質疑応答

発表者	福岡県立八幡高等学校	指導・助言者 によるFB	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教員自身が探究できていない学校が多い中、今回ご紹介いただいた「国語×理科」や「社会×英語」やそれ以外にも多数の教科横断型授業を通じて、教員自身が楽しみながら探究に取り組んでいる様子が伝わった。学校全体で変化しようとする意気込みが感じられ、他校も参考にしてほしい ■ 直面している課題として「取り組みを効果的にする手立てがない」とのことだったが、教育は本来、試行錯誤を重ねていくもの。3Dプリンタを導入すれば解決するという単純な話ではなく、現場で生徒を理解している先生が「この機材が必要だ」「これを取り入れたらどうか」などと試行錯誤していくことが最善策ではないか
発表 テーマ	文理横断的・探究的な学びにおけるデジタルの活用方法	質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ■ 3DプリンタやCADの指導は教員が担当したのか、それとも外部講師によるものなのか？ ⇒ 生徒は教員の指導なしで使いこなしており、教員は使い方の確認やメンテナンス補助のみで心配は少なかった ■ 教科横断型の授業は年間どのくらい実施しているか？教員の負担を減らすための施策は？ ⇒ 授業は年間10回（各3時間）行われ、負担を減らすために共通教材を用いて全クラスで同じ内容を実施している ■ 情報・数学・理科以外の教員も巻き込む方法は？ ⇒ 学校としての課題である。生徒と同様に3Dプリンタやセンサーの活用方法を紹介していくことが必要
発表内容 要旨	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ● 理数探究において、生徒が数学・物理・化学・生物の学問分野で興味・関心のある内容について研究をした <ul style="list-style-type: none"> - 様々なセンサーを活用することにより、多くの正確なデータを取得できた - 3Dプリンタを活用し、実験器具を作ることで、適切な環境条件を再現したデータを取得できた ● 文理共創科では「海洋ゴミ削減アクション」や「小学生と建築を学ぶおもちゃの橋づくり」などの探究を実践した ■ 授業がうまくいったポイント <ul style="list-style-type: none"> ● 関係教員に購入希望製品を丁寧に聴き取ったことにより、購入してからは高い頻度で利用された ● 3Dプリンタの制作物を全生徒に紹介し、部活動や生徒活動での使用を促した結果、活用につながった ■ 直面した課題 <ul style="list-style-type: none"> ● 方向性は定まってきたが、それを効果的に実現する手立てを授業に落とし込み切れていない ● センサーなど活用が広がっていない機器があり、今後周知を図っていく必要がある 		



実践発表会②（長崎県立長崎東高等学校）

実践発表内容

実践発表を受けたフィードバック（FB）・質疑応答

発表者	長崎県立長崎東高等学校
発表テーマ	デジタルの活用等に関連した校内研修の実施
発表内容要旨	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ● 職員向けのAI研修で、生徒が生きるこれからの社会を学習し、AIと向き合う必要性を認識 ● オンライン統計研修で、探究学習において取り扱う機会が多い「アンケート」について教員・生徒が学習 ● ICT・AI授業活用研修では、授業で実践した内容を教員同士で共有し、授業を改善していくために議論 ● 校外研修を含む、探究学習を進めるための研修を実施 ■ 授業がうまくいったポイント <ul style="list-style-type: none"> ● 教員が安心して生成AIを授業に取り入れられるようになり、生徒の日常的な生成AIやICT活用につながった ● 大型電子黒板やアプリの活用により、生徒が自身の考えを瞬時に黒板に写して意見を伝えられるようになった ● 放課後や空き時間に生徒が探究ルームに集まるようになり、学習が「自分たちのプロジェクト活動」へ変容した ■ 直面した課題 <ul style="list-style-type: none"> ● 一部の教員による実践にとどまり、学校全体に波及していない。今後は、実践事例の共有・コミュニティ作り・探究ルームの教員への開放などの対応をしていく方針

指導・助言者によるFB	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多くの県立高校には、大学のように休み時間に集まって学習や制作ができるワーキングコモンズがないため、学校が協働しながら学ぶことの重要性に着目して探究ルームを設置したことは非常に良い取り組み ■ 統計とデータサイエンスについて、多くの高校では理系のみを対象としている事例が多い中で、文系の生徒も対象に実施している取組は今後も推進してほしい ■ 短時間で他教員の実践を共有するミニ研究会では、失敗を許容することで心理的安全性を確保しており、教員の主体性に繋がっていると考えられる。今後は、希望者が自由に参加できるワークショップを開催することで、コミュニティの活性化を図れるのではないかと
質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教員向け研修の対象者・実施時間や頻度は？ <ul style="list-style-type: none"> ⇒ AI研修は1時間で全員を対象とし、ミニ研修会は年に3-4回任意で開催。教員間の温度差を埋めるために職員会議後にDXハイスクールの取組を共有することもある ■ 他の学校との意見交換などは実施しているか？ <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 公式なものはないが、県内の教員と情報共有しており、統計研修は県内外から27校がオンライン参加した ■ 外部連携を常態化させるための仕組みはあるか？ <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 特定の高校とほぼ毎週探究の時間でやりとりしており、定期的に大学の指導も受けている。担当の教員が必ずわかる範囲でというルールで運用している

グループ協議① 発表内容

協議テーマ	参加校数 (グループ数)	グループ協議の発表内容
文理横断的・探究的な学びにおけるデジタルの活用方法	88校 (16グループ)	グループ2 <ul style="list-style-type: none">● 準備が整う前に機材が届いてしまった学校もあれば、既存の設備をどう活かすかを重視して取り組む学校もあった● 「外部とのつながりができない」や「探究モードへの移行ができていない」など課題は多岐にわたり整理が難しかった● 一方で、学校間で取り組み事例を共有したり、優れた外部講師を紹介し合ったりすることで、連携を深め、課題を改善していけると考えられた
デジタルの活用等に関連した校内研修の実施	60校 (11グループ)	グループ17 <ul style="list-style-type: none">● 研修の課題として、学校全体での実施が不十分であることや、一部の教員の理解や満足が得られていないことが挙げられた● 購入した機材の活用における課題として、研修が未実施のため活用方法が浸透していない、教材や評価基準の準備が間に合っていないなどが挙げられた● 課題の解決策として、研修は日を分けて実施する、難易度を分けて実施する、科学的な知見を多く取り入れた研修を実施するなどが議論された

グループ協議② – 実施報告 –

